

令和6年度 施策評価シート

施策の名称	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	幹事部局	教育委員会
施策の目的	全国に誇る島根固有の歴史・文化についての保存・継承と、調査研究を進め、その魅力を県内外に積極的に発信し、歴史・文化を通じた人々の交流を促します。		
施策の現状に対する評価	<p><u>①(歴史文化遺産の保存・継承)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 市町村や所有者が実施する文化財の保存修理、耐震化等を計画的に支援しているが、今後も、大規模な修理を要する重要文化財建造物等が数多く残っている。 <p><u>②(歴史文化遺産の研究と情報発信)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 講座・シンポジウムは、会場とオンラインの併用により、参加者が予想を上回る増加となった。 古代文化センターの研究成果である書籍「古代文化研究」などのウェブ公開を計画的に進めている。 <p><u>③(歴史文化遺産の活用)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 古代出雲歴史博物館では、団体旅行客の減少やマイカー利用の個人客の増加など、客層に変化が見られる。また、学校利用による児童生徒の受入れを行っているが、展示内容が社会科学習に沿ったものとなっていない。 世界遺産石見銀山遺跡については、世界遺産センターでの企画展や、オンライン講座を開催するなど、認知度向上と来訪者の増加に努めているが、調査研究の成果内容などは専門的であるため、一般向けには分かりにくい情報となっている。 		
今後の取組の方向性	<p><u>①(歴史文化遺産の保存・継承)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財の保存状態等について市町村や所有者と情報共有し、中長期的な観点から、計画的に修理等が行われるよう支援していく。 <p><u>②(歴史文化遺産の研究と情報発信)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 県内外の幅広い年代の人々に島根の歴史・文化に関心を持ってもらうため、講座受講者等のアンケート結果を踏まえた研究成果の情報発信を行うほか、オンラインも活用した情報発信に継続的に取り組む。 <p><u>③(歴史文化遺産の活用)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 古代出雲歴史博物館について、個人旅行客向けの情報発信を強化するとともに、学校の社会科学習に沿った展示内容にするなど、魅力の向上を図る。 世界遺産石見銀山遺跡について、幅広い世代の関心を引くような親しみやすい情報発信に努めるほか、令和9年度の発見500年・登録20周年に向けて、大田市や地元関係団体等と連携し、石見銀山遺跡の魅力化や持続化に向けた取組を検討する。 		

事務事業の一覧

施策の名称		VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用				
	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どういう状態を目指すのか			
1	指定文化財等保護事務	県民、文化財所有者・保持団体	県民が郷土への愛着や誇りを持ち、文化財を将来にわたって確実に継承し、活用できるように地域総がかりで取り組む環境を整備する。	4,382	4,843	文化財課
2	歴史遺産保存整備事業	県民、文化財所有者・保持団体	文化財の損壊や滅失を防ぎ、将来へ確実に継承していく。	131,020	197,180	文化財課
3	八雲立つ風土記の丘事業	県民及び県外からの利用者	風土記の丘地内の史跡や文化財を通して県内の文化財への興味・関心を高め、文化財を身近なものと感じてもらう。	68,122	72,504	文化財課
4	古墳の丘古曾志公園事業	県民及び県外からの利用者	公園内の古墳に触れることで、島根の古代の歴史文化に親しみを持ってもらう。	6,719	8,721	文化財課
5	古代出雲歴史博物館管理運営事業	古代出雲歴史博物館の利用者及び県内外の人々	島根の歴史文化に関する研究成果の発信、学習・交流機会の提供により、県内外の方々に島根の歴史文化の魅力発信し、理解してもらう。	461,635	550,265	文化財課
6	埋蔵文化財保護事務	県民及び開発事業者	開発に際し貴重な文化財が破壊あるいは消失しないよう、計画段階で必要な協議を行い、適切な対応が取られるようにする。	2,616	3,106	文化財課
7	文化財活用事業	県民	子どもから高齢者まで幅広い世代に島根の歴史文化を学習する機会を積極的に提供し、ふるさとを誇りに思う心を醸成することで、県民の心の豊かさの向上に寄与する。	3,404	4,081	文化財課
8	埋蔵文化財調査センター事業	県民・公共事業者	開発事業地内の埋蔵文化財調査を行いその価値を明らかにし、調査で得た情報を県民に還元すると同時に、開発事業と文化財保護との調整を円滑に行い、適正な公共事業の促進を図る。	231,018	601,735	文化財課
9	古代文化の郷「出雲」整備事業	県内外の人々	八雲立つ風土記の丘地内の史跡等の魅力向上を図るとともに、出雲部に存在する多様な文化遺産をネットワーク化し、歴史探訪ルートを設定して、野外博物館として活用してもらう。	14,394	23,277	文化財課
10	未来に引き継ぐ石見銀山保全事業	県内外の人々	世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の価値を高め、その価値や魅力についての情報発信による認知度の向上や、適切な保存整備を図ることで、確実に未来に継承する。	72,637	86,054	文化財課
11	古代文化研究事業	県内外の人々	しまねの特色ある歴史文化について、新たな視点から調査研究を行い、学術的基盤を構築する。研究成果を広く公開して、歴史・文化の魅力向上させることを通じ人々の交流を促す。	41,099	52,579	文化財課
12	島根の歴史文化活用推進事業	県内外の人々	しまねの豊かな歴史文化の魅力を広く伝え、県民の郷土への自信を培う。県外の方々には、しまねの歴史文化に関心をもってもらうことで、人々の交流を促進する。	32,058	36,816	文化財課
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課 文化財課

事務事業の名称		指定文化財等保護事務				
目的	誰(何)を対象として	県民、文化財所有者・保持団体	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額	
	どういう状態を目指すのか	県民が郷土への愛着や誇りを持ち、文化財を将来にわたって確実に継承し、活用できるように地域総がかりで取り組む環境を整備する。		4,382	4,843	
			うち一般財源 (千円)	4,382	4,843	
令和6年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> ・島根県文化財保護審議会の開催 ・文化財保護法や島根県文化財保護条例等に基づく文化財の指定事務 ・博物館法に基づく博物館の登録事務、銃砲刀剣類取締法に基づく銃砲刀剣類登録事務 ・島根県文化財保存活用大綱に基づく文化財の保存・継承・活用の推進 				
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと		<ul style="list-style-type: none"> ・市町村や無形民俗文化財の保持団体等に対し、文化庁の補助事業(衣装等修理や公開支援など)を周知し、活用を促す。 ・国や県文化財保護審議会委員等の専門家による意見を踏まえ、市町村の文化財管理が適切に行われるよう支援する。 ・大綱の考え方を市町村と共有し、文化財保存活用地域計画作成中の市町村からの求めに応じ必要な助言、協力を行う。 				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策		
2	上位の施策		4	上位の施策		

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	国・県指定文化財の指定件数【当該年度4月～3月】	目標値		4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	件	単年度値
		実績値	4.0	0.0	5.0	1.0	1.0			
		達成率	—	—	125.0	25.0	25.0	—	%	
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—	%	
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		令和5年度 文化財の指定:(県)天然記念物 ニホンアシカ剥製標本、(県追加)史跡 山代郷南新造院跡、登録:(国)島根半島沿岸及び宍道湖・中海の漁撈用具、(国)中原家住宅 文化財保存活用地域計画:5市町(益田市、出雲市、津和野町、松江市、大田市)が策定済、2市町(浜田市、美郷町)が策定中 文化庁の補助事業のうち地域伝統行事・民俗芸能等への補助にかかわるもの:衣装等修理(R4 7件13団体、R5 2件14団体)、公開支援(R4 8件、R5 1件)								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・県にとって重要な文化財が、新規で1件、追加で1件、県指定文化財に指定された。 ・市町村や無形民俗文化財の保持団体等に対し、文化庁の補助事業を周知し、2件の活用実績があった。 ・文化財保存活用地域計画について、令和6年度の認定に向け、策定中の2市町へ支援を行った。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・近代遺跡など、文化財の相対的な評価が定まらない等の理由により、指定の可否が判断できないものがある。 ・神楽等の無形民俗文化財の保持団体等の中には、技術やノウハウ等の継承が困難な団体がある。 ・市町村によっては、文化財の調査研究、保存・継承、活用が難しい状況にある。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財を相対的に評価する上で欠かせない、県全体を把握するための基礎的な調査が進んでいないため。 ・活動費用の不足や後継者不足等の状況が生じている。 ・文化財専門職員の未配置等により、専門的見地による文化財の管理が十分にできない。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財の基礎的な調査を引き続き実施し、全体把握に努める。 ・市町村や無形民俗文化財の保持団体等に対し、引き続き文化庁の補助事業(衣装等修理、後継者養成など)を周知し、活用を促す。 ・国や県文化財保護審議会委員等の専門家による意見を踏まえ、市町村の文化財管理を支援する。 ・大綱の基本的な考え方を市町村と共有し、文化財保存活用地域計画を策定する市町村からの求めに応じ必要な助言、協力を行う。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		歴史遺産保存整備事業			
目的	誰(何)を対象として	県民、文化財所有者・保持団体	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	文化財の損壊や滅失を防ぎ、将来へ確実に継承していく		131,020	197,180
			うち一般財源 (千円)	120,988	135,763
令和6年度の取組内容	・国及び県指定の文化財のうち、経年劣化や自然災害等により保存が危ぶまれるものや、技術等の伝承が危ぶまれるものについて、その修理や伝承等に要する経費の一部を助成する。				
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・市町村や所有者と情報共有を図り、概ね5年後までの事業見込を把握し、特に修理時期を迎える文化財については、計画的に修理が行えるよう調整を行う。				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	歴史遺産保存整備の補助要望に対する採択割合【当該年度4月～3月】	目標値		87.0	87.0	87.0	87.0	87.0	%	単年度 値
		実績値	86.3	95.2	86.9	89.7	91.2			
		達成率	—	109.5	99.9	103.2	104.9	—	%	
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—	%	
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実	過年度6月時点における補助要望件数に対する採択件数が占める割合 R01年度事業分 19件/22件(86.3%) R02年度 20件/21件(95.2%) R03年度 20件/23件(86.9%) R04年度 26件/29件(89.7%) R05年度 31件/34件(91.2%)									

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・指定文化財の保存修理について、所有者や市町村と連携し、計画的に進めている。 ・保存修理後は、建造物を一般向けに公開するなど、地域資源としても活用されている。 (令和5年度で完了した事業)重文 日御碕神社の宮(上の宮)鳥居(西)建造物保存修理事業、重文景 奥出雲たたら製鉄及び棚田の文化的景観保護推進事業、など (継続して実施している事業)国宝 松江城天守防災施設整備、重要無形文化財 石州半紙文化財伝承、など
課題分析	① 課題	・指定文化財の保存修理や維持管理、耐震対策等を行う場合、多額の自己負担が生じる。 ・保存修理を要する文化財(建造物)が多数ある。
	② 原因	・文化財の保存修理はその性質上、材料や工法が特殊なため、一般的な修理と比較して費用が高む。 ・経年劣化による建造物の保存修理のほか、耐震化工事を要するものがある。
	③ 方向性	・文化財の傷みが進行すると保存修理費用が増大するため、随時、市町村、所有者、専門家で保存状態を情報共有し、適切な時期に修理が行われるよう支援し、また事業実施時には事業が円滑に進むよう市町村と連携し支援する。 ・事業計画について、市町村及び所有者と綿密な協議を行い、概ね5年後までの中長期的な事業計画を把握した上で、適切に事業実施ができるよう支援する。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課 文化財課

事務事業の名称		八雲立つ風土記の丘事業			
目的	誰(何)を対象として	県民及び県外からの利用者	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額
	どういった状態を目指すのか	風土記の丘地内の史跡や文化財を通して県内の文化財への興味・関心を高め、文化財を身近なものと感じてもらおう。		68,122	72,504
令和6年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、SNS等を活用した情報発信、史跡音声ガイド端末や電動アシスト自転車の利用を促進する。 ・近隣学校及び公民館の行事受け入れ、イベントの開催、興味・関心を惹起するような展覧会の開催。 ・展示内容の充実、複数ある施設の維持・管理・運営を行う。 ・郷土の歴史を深く学ぶため、年に12回講師を呼び講演会を開催するなどの普及事業を行う。 ・令和6年12月に大庭鶏塚、山代二子塚が国の史跡指定100周年を迎えるため関連事業を行う。 				
令和5年度に行った評価を踏まえて見直した点	・風土記の丘の拠点施設としての機能を発揮するため、史跡マップを活用し、利用者に地内の周遊を促す。				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	八雲立つ風土記の丘展示学習館、山代二子塚土層見学施設、ガイダンス山代の郷の入館者数【当該年度4月～3月】	目標値		24,000.0	24,000.0	24,000.0	24,000.0	24,000.0	人	単年度値
		実績値	23,811.0	14,539.0	16,058.0	22,203.0	22,233.0			
		達成率	—	60.6	67.0	92.6	92.7	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		入館者推移①県内(R3年度 53%、R4年度 54%、R5年度 48%) ②初めての来場(R3 51%、R4 54%、R5 59%)、2～4回(R3 32%、R4 27%、R5 25%)、5回以上(R3 17%、R4 19%、R5 16%) ・企画展開催数(展示学習館(企画展6回12,748人)、ガイダンス山代の郷(ロビー展2回2,153人)、風土記の丘教室(579人)、こどもまつり(1,500人)、特別展開連イベント(1,000人)月の宴(200人)などを実施。Youtube(総再生回数23,789回(R6.5.24時点))								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・復元竪穴住居の建替えを実施し、来館者の増につながった。(4月の入館者数が前年度比24%増) ・10月に特別展開連イベントとして子供向けのクイズラリーや移動動物園を行い、1,000人の来館者があった。
課題分析	① 課題	・周辺の史跡や文化財の魅力が県民に伝えきれていない。
	② 原因	・上記①(課題)が発生している原因
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページやSNSでの情報発信等により、八雲立つ風土記の丘が、地内のガイダンス機能を持つ拠点施設であることを引き続き周知し、来館者により一層、史跡に親しんでもらえるよう、史跡マップ、音声ガイド、電動自転車等の利用を促す。 ・令和6年12月に大庭鶏塚、山代二子塚が国の史跡指定100周年を迎えるため、特別展を開催するほか、松江市、出雲市との連携事業を実施し、入館者の増加を図る。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		古墳の丘古曾志公園事業				
目的	誰(何)を対象として	県民及び県外からの利用者	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額	
	どういう状態を目指すのか	公園内の古墳に触れることで、島根の古代の歴史文化に親しみを持ってもらう。		6,719	8,721	
			うち一般財源 (千円)	6,677	8,702	
令和6年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の安全確保のために、施設の適切な維持管理を行う。 ・良好な利用環境確保のため、設備の修繕に努める。 ・地元公民館や埋蔵文化財調査センター等の協力を得て、各種イベントの開催や学校等への広報活動を積極的に行い、施設(史跡)への理解を深める。 					
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと	石段や駐車場区画線の修繕を行う。					
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策		
2	上位の施策		4	上位の施策		

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	古墳の丘古曾志公園事故発生件数【当該年度4月～3月】	目標値		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	件	単年度 値
		実績値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
		達成率	—	—	—	—	—	—	%	
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—	%	
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> ・コスト削減のため、教育機能を持った公園としての位置付けを平成19年度から変更して一般の公園として開放している。 ・指定管理者により園内は良好な環境に保たれているが、建築物・構造物・備品共に老朽化が進行している。 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携して「文化まつり」を開催し、多くの方に参加してもらえるよう周辺自治会や小・中学校へ広報を行った。 ・アスファルト舗装修繕やトイレの洋式化等を行い、利用環境を改善した。 	
課題分析	① 課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するために)支障となっている点	・建築物や構造物の発錆劣化や音響機器の故障等、全般的に老朽化が進行している。
	② 原因	上記①(課題)が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> ・開園後30余年を経過 ・経費的な問題で抜本的な修繕が困難
	③ 方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な園内の見回りや施設の保守点検、計画的な設備の修繕を実施し、利用者の安全確保を図る。 ・老朽化した個別施設、機器ごとに、安全性や費用対効果を考慮し、今後の修繕計画を検討する。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		古代出雲歴史博物館管理運営事業			
目的	誰(何)を対象として	古代出雲歴史博物館の利用者及び県内外の人々	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	島根の歴史文化に関する研究成果の発信、学習・交流機会の提供により、県内外の方々に島根の歴史文化の魅力を発信し、理解してもらう。		461,635	550,265
令和6年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度は、(夏)荒神谷発見!、(秋)山陰の戦乱の2つの展覧会を開催 企画展時における講演会・講座や出前講座・講師派遣、歴博夏祭りなど各種イベント等を実施 来館者アンケートを実施し、利用しやすく快適な施設運営と効果的な広報に活用 ミニ企画展示として、2ヶ月ごとにテーマを変えながら、収蔵品や寄託資料など、常設展では公開していない資料を展示 小中高等学校利用の促進を図るため、引き続き、校長会や学校関係者、旅行社等へ働きかける。 				
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> 出雲大社を訪れる個人客・マイカー客を取り込むため、インスタグラム、フェイスブック等のSNSでの広報・宣伝活動を実施する。 改修工事や魅力アップ事業実施に向けた準備を行うと共に、再オープン後の来館者増加のための情報発信等を検討する。 				
1	上位の施策	Ⅵ-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	古代出雲歴史博物館入館者数【当該年度4月～3月】	目標値		240,000.0	180,000.0	200,000.0	240,000.0	240,000.0	人	単年度 値
		実績値	170,798.0	94,842.0	103,977.0	148,339.0	179,036.0			
		達成率	—	39.6	57.8	74.2	74.6	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> 出雲大社の入込客:(コロナ禍前)600万人程度、(令和2年度)約400万人、(令和4年度)約615万人と回復 入館者数:(平成30年度)24万人、(令和2年度)緊急事態宣言による休館あり 修学旅行等の学校団体利用:(平成30年度)86校、4,466人、(令和3年度)266校、14,896人、(令和4年度)170校、10,099人、(令和5年度)81校、5,275人 観覧料収入は(平成30年度)72,936千円、(令和5年度)71,232千円とほぼ回復 R5.7月の大雨により機械室が浸水被害を受け、2日間休館 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 展示内容を分かりやすく解説したり、展示内容の動画をチケット売場等で流す等の工夫により、企画展観覧者の増加に努めた。 出雲観光協会と連携しアニメツアー企画に引き続き参加し、新たな客層を獲得した。 展示関連講座を10回(548人聴講)、その他の講座・シンポジウムを3回(240人聴講)、展示関連イベントを3回(157人参加)、実施した。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 出雲大社入込客数は回復しつつあるが、当館の入館者数は令和5年度においてもコロナ禍前(H30)の7割と、出雲大社の入込客を十分に取込みできていない。特に、団体客の減少が大きい。 一方、観覧料収入は回復しており、特に個人有料の来館者は(平成30年度)122,028人に対し、(令和5年度)124,682人と上回っている。 常設展の展示が、児童生徒の社会科学習で利用しづらい内容となっている。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 出雲大社の入込客は、団体客が減少し、マイカー・レンタカー等の車利用の個人客が増加するなど、客層が変化している。 展示室の展示が、社会科学習に沿った通史方式になっていない。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 出雲大社を訪れる個人客に対し、引き続き、SNSを使った情報発信を行う。 マイカー客の割合が高くなったことから、道の駅、主要SA・PA等交通拠点での誘客、出雲大社入込客を取り込むための誘客を積極的に実施する。 令和7年4月からの長期休館中に実施する魅力アップ事業において、展示内容を社会科学習に沿った通史方式に改修する。 また、再オープン後の来館者増加のための情報発信方法等を検討する。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		埋蔵文化財保護事務			
目的	誰(何)を対象として	県民及び開発事業者	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額
	どういった状態を目指すのか	開発に際し貴重な文化財が破壊あるいは消失しないよう、計画段階で必要な協議を行い、適切な対応が取られるようにする		2,616	3,106
			うち一般財源 (千円)	2,616	3,106
令和6年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> 埋蔵文化財の保護に必要な措置を図るため、土地の開発に際して文化財保護法に基づく審査を実施 埋蔵文化財発掘調査を実施する市町村に対し、必要に応じた技術的支援・指導の実施 遺跡の内容に応じた保存方法等、取扱に関する協議 遺跡台帳・リスト・GIS情報の最新化及び周知 			
令和5年度に行った評価を踏まえて見直した点		事前の届出を行わないで、着工することを未然に防ぐため、市町村等を通じて、開発事業者に対して注意喚起を行う。			
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	計画段階で協議を経ず着工する開発事業の件数【当該年度4月～3月】	目標値		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	件	単年度 値
		実績値	1.0	1.0	3.0	1.0	7.0			
		達成率	—	—	—	—	—	—	%	
2	県内における周知の埋蔵文化財包蔵地の数【当該年度3月時点】	目標値		11,500.0	11,510.0	11,520.0	11,530.0	11,540.0	件	累計値
		実績値	11,491.0	11,509.0	11,518.0	11,529.0	11,533.0			
		達成率	—	100.1	100.1	100.1	100.1	—	%	
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> KPI「計画段階で協議を経ず着工する開発事業の件数」とは、周知の埋蔵文化財包蔵地において開発行為を行う場合、法令等の規定に基づき事前の届出が必要とされているが、これを行わずに着工したものの件数。 KPI「県内における周知の埋蔵文化財包蔵地の数」とは、文化財保護法第96条又は第97条に基づく、新たに発見された遺跡に係る届出等の累計。 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 遺跡情報を管理している統合型GISの操作担当者を増やし、遺跡情報の更新速度を上げた。 遺跡台帳における遺跡情報について、市町村と連携することで、更新の作業効率を上げた。 開発事業に係る最初の窓口である市町村に対して、担当者会議等の場を活用し、改めて開発事業者への周知徹底を依頼した。
課題分析	① 課題	開発事業者が協議を経ずに工事に着工する事例が増加した。
	② 原因	埋蔵文化財包蔵地内での開発行為に係り、事前の届出が必要であることを知らない開発事業者が存在している。
	③ 方向性	市町村、開発事業者に対して、埋蔵文化財包蔵地内での開発行為に必要な手続きを周知し、事前の届出に漏れが無いよう注意喚起を行う。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		文化財活用事業				
目的	誰(何)を対象として	県民	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額	
	どのような状態を目指すのか	子どもから高齢者まで幅広い世代に島根の歴史文化を学習する機会を積極的に提供し、ふるさとを誇りに思う心を醸成することで、県民の心の豊かさの向上に寄与する。		3,404	4,081	
			うち一般財源 (千円)	2,194	2,690	
令和6年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> ・心に残る文化財子ども塾：県内の小中学校及び特別支援学校を対象とした古代体験活動や遺跡見学等の出前事業 ・いにしえ倶楽部：子どもや子育て世代を対象とした、まが玉作りなどの体験及び一般を対象とした座学講座 ・発掘調査現地説明会：発掘調査現場を一般公開する現地説明会 ・県内の主要な弥生時代の遺跡を県HPで紹介し、現地の解説板に設置したQRコードからアクセスできるようにする ・大型古墳の史跡指定100年を記念して、松江市・出雲市と連携して関連するイベントを実施する。 ・大型古墳の史跡指定100年に関連するイベントを総括したポスター・チラシを作成する。 				
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと		<ul style="list-style-type: none"> ・広く県民に史跡の価値を知ってもらうため、大型古墳の史跡指定100年を契機として、関連イベントを開催する。 ・文化財をイベント会場などに活用した事例集『文化財活用のススメ』を広く県民に周知する。 				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策		
2	上位の施策		4	上位の施策		

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	子ども塾、いにしえ倶楽部、まちあるきイベント等の行事開催件数【当該年度4月～3月】	目標値		45.0	45.0	45.0	45.0	45.0	件	単年度値
		実績値	42.0	30.0	42.0	42.0	41.0			
		達成率	—	66.7	93.4	93.4	91.2	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・「心に残る文化財子ども塾」の実施状況：(平成30年度)応募30校、計画28校、実施28校 (令和元年度)応募28校、計画25校、実施25校 (令和2年度)応募25校、計画25校、実施22校(コロナで3校辞退) (令和3年度)応募30校、計画28校、実施28校 (令和4年度)応募46校、計画28校、実施28校 (令和5年度)応募45校、計画28校、実施28校								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・子供向けイベント「みらいキッズラボ」や小学校の親子古代体験学習において、子どもや子育て世代が歴史文化を学習する機会のさらなる提供を行った。 ・古墳を紹介したホームページを更新し、ホームページにアクセスできるQRコードを史跡の解説板に設置して、利便性を高めた。 ・文化財の活用事例を紹介した『文化財活用のススメ』を作成した。
課題分析	① 課題	・県民が自ら文化財を利活用する事例が少ない。
	② 原因	・上記①(課題)が発生している原因
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、幅広い世代の県民に対して歴史文化を学習できる機会を提供する。 ・歴史文化の情報に触れやすくするため、引き続き解説板の整備等を実施し、デジタル化を進める。 ・指定文化財の一つである史跡への理解を促すイベントを開催する。 ・『文化財活用のススメ』を文化財所有者・管理団体、社会教育施設、観光協会等へ配布し、文化財の利活用を促進する。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		埋蔵文化財調査センター事業			
目的	誰(何)を対象として	県民・公共事業者	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	開発事業地内の埋蔵文化財調査を行いその価値を明らかにし、調査で得た情報を県民に還元すると同時に、開発事業と文化財保護との調整を円滑に行い、適正な公共事業の促進を図る。		231,018	601,735
			うち一般財源 (千円)	41,420	41,546
令和6年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> 国土交通省や県土木部等が行う公共事業予定地の埋蔵文化財調査(分布・試掘調査、発掘調査)を実施する。 埋蔵文化財関係資料を有効活用するため、埋蔵文化財調査センター施設・設備の維持管理を行い、収蔵する遺物や図書等の関係資料を適切に管理する。 しまねの埋蔵文化財への理解を深めてもらうために、発掘調査の成果や文化財関連事業について、県民に対して広く周知する。 			
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと		関係機関の協力を得て、効果的・効率的な調査が可能となるように密接に連絡調整を実施する。			
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	発掘調査が円滑に行われなかった件数【当該年度4月～3月】	目標値		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	件	単年度値
		実績値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
		達成率	—	—	—	—	—	—	%	
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—	%	
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		KPI「発掘調査が円滑に行われなかった件数」とは、年度内の事業完了が出来ず、事業期間の延長などが誘発された場合の件数 ・令和6年度分布調査予定 2事業（益田西道路、松江北道路） ・令和6年度試掘確認調査 6事業69か所（大橋川改修1か所、益田西道路21か所、益田・田万川道路18か所、松江北道路19か所、国道431号4か所、国道432号6か所）								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関との連絡調整を踏まえて行った分布・試掘調査により、見込まれる発掘調査量を事前に把握し、把握量をもとに体制を整え、円滑な調査を実施した。 発掘調査の成果については、現地公開やパンフレットの作成・配布を行い、広く情報発信した。 ※ 発掘調査を実施した松江、江津の2市(6遺跡)で現地公開を行い、約200名参加 ※ パンフレット「しまねの遺跡発掘調査パンフレット13 松江城下町遺跡 白瀧地区」を3,000部作成し、公民館等へ配布 ※ 「ドキ土器埋文No.69」を5,200部作成し、公民館等へ配布
課題分析	① 課題	突発的な発掘調査の依頼がある。
	② 原因	上記①(課題)が発生している原因 ・河川改修や山陰自動車道の関係事業といった大規模な開発事業について、様々な事情により、設計の変更等が生じることがあるため
	③ 方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性 ・国土交通省や県土木部などの関係機関と緊密な連携を図る。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		古代文化の郷「出雲」整備事業			
目的	誰(何)を対象として	県内外の人々	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	八雲立つ風土記の丘地内の史跡等の魅力向上を図るとともに、出雲部に存在する多様な文化遺産をネットワーク化し、歴史探訪ルートを設定して、野外博物館として活用してもらう		14,394	23,277
令和6年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 八雲立つ風土記の丘展示学習館周辺の周遊ルートマップを配布し、史跡の活用を図る。 子供用の八雲立つ風土記の丘地内の古墳パンフレットを配布し、子供に向けた史跡の活用を図る。 大型古墳の史跡指定100年をきっかけに、風土記の丘地内の古墳への来訪者に向けた古墳パンフレットを作成する。 八雲立つ風土記の丘地内に設置した史跡の解説板を更新し、来訪者の史跡についての理解を図る。 八雲立つ風土記の丘を代表する史跡である出雲国府跡については、今後の整備活用を図るために発掘調査を実施する。 				
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> 八雲立つ風土記の丘展示学習館周辺の史跡について、来訪者の周遊を促す取組を行う。 大人向けの取組に偏らないよう、子供の利便性を高めるための取組を行う。 八雲立つ風土記の丘地内の解説板が老朽化したため、最新の情報を踏まえた分かりやすい内容に更新する。 				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	文化財活用度(出雲地域の代表的な史跡等(松江城など8か所)の来訪者数)【当該年度4月～3月】	目標値		638,000.0	319,000.0	479,000.0	638,000.0	638,000.0	人	単年度値
		実績値	637,755.0	367,363.0	351,576.0	559,706.0	618,185.0			
		達成率	—	57.6	110.3	116.9	96.9	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> KPIの該当史跡等は、松江城、佐太神社、出雲玉作資料館、安来市歴史民俗資料館、加茂岩倉遺跡、出雲弥生の森博物館、荒神谷博物館、鱒淵寺の8か所 山代二子塚については、土層見学施設内の展示パネル更新等を実施した 山代方墳・岩屋後古墳の解説板を更新した 風土記の丘地内の周遊ルートマップを作成した 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 来訪者が八雲立つ風土記の丘地内の主要な史跡である山代二子塚を深く理解するために、土層見学施設内の解説板をリニューアルした。 大型古墳史跡指定100周年記念事業を契機として風土記の丘等を訪れた子供たちに対し、古墳の理解を図るために史跡巡りパンフレット「古墳へGO」を作成した。 八雲立つ風土記の丘地内における古墳の解説板を更新し、最新の情報を反映の上、適切な位置に設置した。 音声ガイドや電動アシスト自転車を利用する来訪者の増加を図るため、風土記の丘地内の周遊マップを作成・印刷し、配布した。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 展示学習館などの施設から周辺の史跡への周遊に繋がる、電動アシスト自転車の利用実績が伸び悩んでいる。 児童・生徒が八雲立つ風土記の丘地内の史跡の理解を深めるための資料が不足している。 八雲立つ風土記の丘地内の解説板の情報が最新ではないことや、多言語対応が不十分である。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 八雲立つ風土記の丘地内には史跡等が多く、電動アシスト自転車等による周遊に便利な地図等が十分でない。 児童・生徒に向けたパンフレットが配置されていない。 八雲立つ風土記の丘地内の解説板が老朽化し、最新の情報を反映できていない。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 八雲立つ風土記の丘地内の展示施設から史跡への来訪に便利な周遊マップを配布し、史跡への来訪を促す。 児童・生徒に八雲立つ風土記の丘地内の史跡等を紹介する子供向けパンフレットを配布する。 引き続き、八雲立つ風土記の丘地内の解説板を最新に更新するとともに多言語化を図る。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課 文化財課

事務事業の名称		未来に引き継ぐ石見銀山保全事業			
目的	誰(何)を対象として	県内外の人々	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の価値を高め、その価値や魅力についての情報発信による認知度の向上や、適切な保存整備を図ることで、確実に未来に継承する		72,637	86,054
			うち一般財源 (千円)	72,237	78,754
令和6年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> 石見銀山遺跡の全容解明及び価値を高める基礎調査研究(考古学・歴史民俗学・自然科学)を実施し、その成果について調査報告書を刊行するとともにHPに掲載する。 令和9年の石見銀山発見500年、世界遺産登録20周年を見据え、石見銀山が世界経済や国内の鉱山開発に与えた影響に関するテーマ研究を進める。 世界遺産センターでの企画展や講座の開催等により、調査成果の県内外への発信を行う。 大田市や関係機関と連携し、史跡等の保存整備や安全対策事業への支援を行う。 			
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと		<ul style="list-style-type: none"> 子供向けの情報発信手段として、石見銀山遺跡を紹介する紙芝居を制作した。 一般の方が興味関心を高められるよう、石見銀山と接点のある戦国武将を絡めるなど講座の内容を工夫する。 			
1	上位の施策	Ⅵ-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	石見銀山遺跡に関する調査研究・保存整備の成果が公開された回数【当該年度4月～3月】	目標値		10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	回	単年度値
		実績値	8.0	8.0	8.0	9.0	11.0			
		達成率	—	80.0	80.0	90.0	110.0	—		
2	講座等での参加者アンケートにおいて石見銀山遺跡への興味・関心が高まったと感じた人の割合【当該年度4月～3月】	目標値		95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	%	単年度値
		実績値	91.2	97.0	94.6	96.0	96.0			
		達成率	—	102.2	99.6	101.1	101.1	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産石見銀山遺跡の首都圏での認知度(しまねの観光認知度調査)は、R2年度34.6%、R3年度32.1%、R4年度33.2%、令和5年度33.4%と推移 石見銀山の入込客延べ数は、R2年171,000人、R3年165,400人、R4年220,100人、令和5年246,100人と推移 オンライン講座(配信申込者数1,705人)、県内講座(参加者数269人)、世界遺産センター企画展(9/27～11/27 合計観覧者数9,030人) 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 調査研究を着実に進め、その成果を報告書の刊行や企画展の開催、講座等により情報発信した(11件)。 10箇所の史跡等の保存整備や安全対策を着実に進めた。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 調査研究の成果内容が専門的であるため、一般向けには分かりにくい情報となっている。 保存整備を行う必要のある史跡等が残っている。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 登録時の世界遺産委員会の要請に対応するよう、学術的な調査研究を継続して行う必要があるため。 史跡等の保存整備に際して、所有者や関係機関等との調整に時間を要する。 学術的な調査研究を推進しつつ、その成果について幅広い世代の関心を引くような親しみやすい情報発信に努める。 史跡等の保存整備について、今後の計画を共有するなど所有者や関係機関等との連携を進め、支援を継続していく。 令和9年の石見銀山発見500年に向けて、石見銀山の「魅力化」や「持続化」の取組を大田市等と連携して検討する。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		古代文化研究事業			
目的	誰(何)を対象として	県内外の人々	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額
	どういった状態を目指すのか	しまねの特色ある歴史文化について、新たな視点から調査研究を行い、学術的基盤を構築する。研究成果を広く公開して、歴史・文化の魅力を向上させることを通じ人々の交流を促す。		41,099	52,579
			うち一般財源 (千円)	38,985	48,115
令和6年度の取組内容	(1)企画運営委員会(古代文化センターの調査研究事業にかかる有識者会議) (2)古代文化基礎研究事業 特色ある島根の歴史文化に関する基礎研究。①考古基礎資料調査研究 ②風土記調査研究 ③中世・近世史料の多角的研究 ④祭礼行事調査研究 (3)古代文化研究事業(テーマ研究) 基礎研究をもとに、外部研究員を交え3年間の研究、4年目に歴博で企画展を実施 (4)調査研究成果の情報発信事業 ①『古代文化研究』、『しまねの古代文化』、テーマ研究報告書等の刊行及びWEB公開 ②『古代文化研究』バックナンバーのWEB公開 ③一般向け書籍『ポケット版出雲国風土記』の刊行				
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・『古代文化研究』掲載論文利用促進のため、ポータルサイトの画面構成の見直しを実施 ・研究事業成果の刊行物である、『古代文化研究』掲載論文の計画的なWEB公開を推進 ・研究成果をわかりやすく伝えるために、一般向け書籍の刊行				
1	上位の施策	VI-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	古代文化研究事業の成果として「古代文化研究」に掲載された論文数【当該年度4月～3月】	目標値		10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	件	単年度 値
		実績値	10.0	10.0	13.0	14.0	14.0			
		達成率	—	100.0	130.0	140.0	140.0	—	%	
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—	%	
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・令和5年度は『古代文化研究』のほか、『しまねの古代文化』、テーマ研究報告書『伊勢と出雲』(論文数13)・『古代隠岐の形成と特質』(論文数12)、調査研究報告書『富田川河床遺跡の研究』、の計4冊を刊行し、研究成果を公開した。								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・令和5年度刊行の『古代文化研究』誌上では、KPIでの目標本数以上の論文を掲載している。 ・さらに『古代文化研究』バックナンバーの電子化・WEB公開を継続し、令和5年度同様のペースで公開論文数を増やしている。 ・また、一般の方々に関心を持ってもらうため、ポータルサイトのコンテンツや講座・シンポジウムで、現在取り組んでいる研究の成果を、わかりやすく伝えるよう努めている。
課題分析	① 課題	・学術的基盤構築のためには、『古代文化研究』のWEB公開論文数を増やし、研究成果の利用を促進していく必要がある。現在までに約100本の論文をWEB公開したものの、未公開の論文が残っている。
	② 原因	・論文執筆者や掲載画像の権利者の承諾を得た後に論文のWEB公開はできるが、多数の権利者との調整に膨大な時間が必要となる場合がある。
	③ 方向性	・利用可能な論文数を増やすため、『古代文化研究』バックナンバー掲載論文については、権利者の理解が比較的得られやすいものを優先して公開する。また、公開方法を検討して手続きの簡略化を図ることで、引き続きその公開本数を増やしていく。 ・調査研究の成果は、引き続き一般向けの刊行物・講演会・ポータルサイトの内容に反映させ、わかりやすく伝えていく。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化財課

事務事業の名称		島根の歴史文化活用推進事業			
目的	誰(何)を対象として	県内外の人々	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	しまねの豊かな歴史文化の魅力を広く伝え、県民の郷土への自信を培う。県外の方々には、しまねの歴史文化に関心をもってもらうことで、人々の交流を促進する。		うち一般財源 (千円)	32,058
令和6年度の取組内容	(1) 県民参加型事業(講座) ①島根の歴史文化講座(松江) ②隠岐国巡回講座 ③石見国巡回講座 (2) 県外における情報発信 ①古代出雲文化シンポジウム(東京) ②しまねの古代文化連続講座(東京)+しまねの古代文化探訪バスツアー(島根) ③島根の日本遺産に関する情報発信 (3) 他県との連携事業 ①古代歴史文化に関する共同調査研究(古代歴史文化にゆかりの深い県との連携)				
令和5年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・古代出雲文化シンポジウム会場で講師が案内する現地映像を流すなど、来訪者増加への工夫を継続 ・シンポジウム・講座・バスツアーで「島根の特色ある古墳」を繰り返し取り上げ、来訪動機を喚起 ・歴史文化に関心のある新たなファン層を獲得するため、引き続き動画やSNSを定期配信				
1	上位の施策	Ⅵ-4-(2) 文化財の保存・継承と活用	3	上位の施策	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
2	上位の施策	Ⅰ-2-(2) 観光の振興	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	島根の歴史・文化に関する講座・シンポジウム等参加人数【当該年度4月～3月】	目標値		5,000.0	6,000.0	6,000.0	9,000.0	9,000.0	人	単年度値
		実績値	4,967.0	5,800.0	6,643.0	8,960.0	154,218.0			
		達成率	—	116.0	110.8	149.4	1,713.6	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		講座・シンポジウム参加者数内訳 R2 総数5,800名 うち会場1,181名(20%)、オンライン4,619名(80%) R3 総数6,643名 うち会場1,170名(18%)、オンライン5,473名(82%) R4 総数8,960名 うち会場2,256名(25%)、オンライン6,704名(75%) R5 総数154,218名 うち会場1,950名(1.2%)、オンライン152,268名(98.8%)								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・講座・シンポジウムについては「しまこだチャンネル」での動画配信を実施し、オンライン視聴者数は23倍に増えた。 ・シンポジウム会場で上映した、講師が「出雲国風土記」現地在案内する映像は、アンケート回答者の87%が満足と評価し、「島根県に行ってみよう」という回答も96%を占め、島根県への来訪希望者を着実に増やすことができた。 ・首都圏在住者を対象としたバスツアーの参加者は満員となった。さらに参加者に詳細なアンケートを実施することで、島根の古代文化に対するニーズの把握にもつながった。
課題分析	① 課題	・講座・シンポジウムにおいて、会場参加者数が減少する一方で、オンライン視聴者数の大幅増という偏った状況となっている。 ・オンライン配信動画の視聴者数は極めて増加したものの、それを維持するためにはリピーターを確保する必要がある。
	② 原因	・県内講座での会場参加者数が減少している。 ・リピーターを確保するための取組が十分とはいえない。
	③ 方向性	・県内講座はワークショップや会場での展示などを含めた多様な形態で開催し、会場参加者の増加につなげる。 ・視聴者のニーズに即した良質な動画を提供することに加え、メーリングリストを用いて新規動画の公開について情報提供する。また、リピーターの確保と新たな歴史ファン層の獲得に向けた、動画の配信方法を工夫する。